



## 東北での社外活動

応用地質㈱ 東北支社長

鈴木 楯 夫

入社以来20年以上勤務した関東圏（浦和、東京、横浜）から、平成6年9月に単身で仙台に赴任してきましたが、早4年が過ぎようとしています。

私は、生まれも育ちも東京で、新入社員時代の2年間だけ新潟で単身生活をした以外は、全て実家から通学、通勤していました。

丁度50才の年に、東北の担当ということで、仙台への転勤を命じられましたが、子供のことや歳老いた父親のことなど面倒なことは全て妻（他人）に押しつけるという私の主義（？）を押し通して、単身、仙台に赴任し今日を迎えたわけです。当初は、果たして北国での1人生活ができるか否かやや不安にも思いましたが、父親が秋田県仙北郡協和村境字境（子供のころの本籍地で学校関係の書類にはいつも書いていていつまでも記憶に残っている；今では町になったようですが）の出身であったことや、私が1～2才の頃の疎開先が、父親の弟の住む青森県田舎館村でしたから、「血が騒ぐのか？」東北の春夏秋冬のはっきりした季節感や、山・川・海、新緑、紅葉の自然の美しさなどに、すっかり魅入られ、近頃ではこのまま東北で一生を過ごしたいと思うほどになりました。

私の社外活動と言えば、東北地質協会での委員会活動しかありませんので、当然協会との係わりも深くなり、東北6県内の業界の経営者や諸先輩の皆様から様々なことを教えられるにつけ、私の未熟さを痛感したり、東北のすばらしさを再認識したりしております。

さて、昨今の建設関連業界は、公共工事の削減、建設コストの縮減が実行される中、透明性や効率性が強く求められています。より良いものを、より安く、より早く提供できるシステムづくりのため、成果物の電子情報化による効率化や電子入札等の電子調達による手続きの迅速化・省力化を図るための建設CALSの導入も間近にせまってきました。

また、ISO9000sによる品質管理、品質保証システムの構築と「成果物に瑕疵が発見された時」の賠償責任問題なども大きくクローズアップしてきました。

更に、設計や施工法においては、民間の技術提案を受け付けるVE方式も拡大してきました。しかし、地質の評価を誤ったことが原因でコストを大きく膨らませてしまった事例が繰り返される中、地質調査段階においてもVE提案の余地は充分にあると云われております。VE提案のできる高度で良質な技術者の育成が求められています。

このような環境の中、東北協会でも、各委員会を中心にして、昨年度は、ISO9004及び建設CALSに関する説明会、独占禁止法説明会、積算説明会、地質調査業務等に係わる職業賠償責任説明会、地質調査技士・RCCM等の資格取得講習会などを実施し、会員各位の技術の向上、業界の地位向上に努力しております。私も東北での唯一の社外活動に微力ながら貢献し、東北協会の健全な発展の一翼を担えればと願っております。

## プロフィール

昭和18年9月13日生 54才

昭和44年3月 早稲田大学大学院理工学研究科 修士課程卒（土質及び道路）

昭和44年4月 応用地質株式会社入社

平成6年9月 横浜支店より東北支社（仙台）に転勤

平成7年1月 東北支社長

東北地質調査業協会理事 広報委員長

平成9年6月 東北地質調査業協会理事 総務委員長

平成10年5月 東北地質調査業協会副理事長 総務委員長

趣味 ザル碁、ハンディ36のゴルフ

家族（東京） 父：87才 妻、子供2人（1女1男）

